

国立国語研究所学術情報リポジトリ

「全国方言談話データベース」による方言文法の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 文子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002940

「全国方言談話データベース」による方言文法の研究

井上文子（情報資料部門第一領域）

fumiko@kokken.go.jp

1. 「各地方言収集緊急調査」について

1.1. 実施概要

昭和 52(1977)年度から昭和 60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に、それぞれ 3 年計画で各地方言の収集を行うことを指示し、各教育委員会は、言語学・国語学・方言学の専門家から調査員として、主任調査員 2 名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

1.2. 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

1.3. 調査時期

第 1 次（昭和 52(1977)～54(1979)年度）～第 7 次（昭和 58(1983)～60(1985)年度）

1.4. 調査方法

定められた調査内容にしたがって、1 地点につき 1 年度あたり 10 時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を 3 時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

1.5. 調査内容

- ① 老年層の男女各 1 人による対話、または、男女を含む 3 人の会話（2 時間）
- ② 老年層の男性 2 人の対話、または、老年層の男性 3 人の会話（1 時間）
- ③ 老年層の女性 2 人の対話、または、老年層の女性 3 人の会話（1 時間）
- ④ 老年層と若年層との対話、または、両者を含む 3 人の会話（1 時間）
- ⑤ 老年層の男性 2 人の、目上の者と目下の者の対話（2 時間）
- ⑥ 場面設定の対話（1 時間、各場面につき 1～3 分程度）

場面に応じて、老年層の男性 2 人の対話、または、老年層の男女各 1 人による対話

- ⑦ 当該地域に伝わる民話（1 時間）

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

不可能な場合は、⑧または⑨に替える。

- ⑧ 老年層の女性 2 人の、目上の者と目下の者の会話（1 時間）

または、

- ⑨ 目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の、2 人の対話（1 時間）

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

1.6. 調査地点

調査地点は，各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

1.7. 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よその土地に住んだことがあっても，その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は，原則として，老年層の場合は，収録時において60歳以上とし，若年層の場合は，20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

1.8. 録音

自然な会話を良質な録音で残すため，使用する録音機の性能，マイクの種類・配置，テープの長さ，収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には，採録地点，採録年月日，話題，時間，話者，採録機種などを記入する。

録音テープは，収録したオリジナルのテープ（正）を1本，正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

1.9. 文字化

方言音声の文字化の際の表記は，原則として，カタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について，場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記，表記法についての説明などを行う。各地点ごとに，収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など，収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には，話者の氏名・性・生年・経歴，録音内容などを記入する。

文字化原稿は，手書きのオリジナル原稿（正）を1部，正の複製（副）を2部作成する。

1.10. 調査資料

調査終了後，方言談話を収録した録音テープとその文字化原稿は，「各地方言収集緊

急調査」報告として、各教育委員会から文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。

日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間の方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。

2. 「全国方言談話データベース」について

2.1. 公開の形態

国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話のデータベースを作成し、公開するという計画を進行中である。

公開は段階的に行うものとし、一般の利用も考慮して、まず、『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第1巻～第20巻』の刊行を開始した。各巻は、冊子+CD-ROM+CDで構成され、2～3地点のデータを収録している。

2.2. データベース化部分

今回の公開では、老年層男女の自然会話の中から、その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度、各都道府県につき1地点ずつ、計47地点分を選定して、データベース化している。

2.3. データベース化作業

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実にを行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、談話内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点、30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の、文字化テキストと、それに対応するデジタル化した録音音声を抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。
- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、

必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。

- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行うが、場合に応じて最低限の変更を加える。
- ⑨収録地点の概観、方言の特色などの解説については、原則としては原資料に従って行うが、全体の統一を図るため、表記・章立てなどについて、最低限の変更を加える。
- ⑩調査の概要、収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報、話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。
- ⑪校正を行った文字データをもとに、文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを作成する。さらに、それをpdfファイルにする。
- ⑫文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて、文字化のtextファイル、共通語訳のtextファイルを作成する。
- ⑬音声データは、デジタル化した後、音声ファイル形式などの調整を行い、音声waveファイルを作成する。そして、それを、文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って、ページ単位に切り、文字化・共通語訳のpdfファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROMは、データベースソフトを利用して、文字化・共通語訳の文字列による検索、話者による検索などができるようにする。
- ⑮CDには、トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については、必要に応じて、現地へ赴き、収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら、入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには、可能な限り、文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において、ある程度のデータが蓄積された段階で、CD-ROM、または、音声はカセットテープ・MD、文字はFDを媒体とした試作版を作成し、モニターに依頼して意見・要望を求め、データベースに反映させる。
- ⑲検索情報の整備、検索マニュアル、利用規程などの作成を行う。

2.4. データベースの内容・構成

談話データは、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。

音声データについては、冊子のページ単位で切った方言談話音声をwaveファイルでCD-ROMに収めた。この音声は、冊子のページをpdfファイルにしたものにリンクしているので、各ページにある再生の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。方言談話全体の音声はCDに収め、適当な個所でトラックに区切っている。

文字化データは表音的カタカナ表記、共通語訳データは漢字かなまじり表記である。また、CD-ROMと冊子には、方言談話音声の文字化と共通語訳とを、対照できるように、上下2段組にして示した。上段が文字化、下段が共通語訳である。

注意点としては、この文字化の分かち書きや句読点などが、便宜的なもので、厳密なものではないことがあげられる。また、文字化は時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただくことが必要である。

各地点ごとに収録している情報は以下のとおりである。

項目	形式	収録媒体
地図	Pdf	CD-ROM
話者・担当者	Pdf	CD-ROM
解説	Pdf	CD-ROM
凡例	pdf	CD-ROM
談話	pdf	CD-ROM
文字化・共通語訳		冊子
文字化・共通語訳＋方言音声（ページ単位）	pdf＋wave	CD-ROM
文字化・共通語訳検索	FileMaker	CD-ROM
文字化（談話全体）	text	CD-ROM
共通語訳（談話全体）	text	CD-ROM
方言音声（談話全体）		CD
注記	pdf	CD-ROM

また、文字化・共通語訳データについては、検索ソフトにより、文字列や話者による検索などが可能である。

検索情報は次のようになっている。

収録地点
発話番号
話者記号
文字化
共通語訳
冊子ページ
CDトラック番号

発話番号は、ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言につけた通し番号である。途中にあいづちが含む場合もある。

話者記号は、話者、調査者など、談話の場にいる人物について、固有名を出さず、A、B、C、…のように、アルファベットで示した。ただし、音声については、該当個所に加工をしていない。

2.5. 『全国方言談話データベース』の特徴

- ・文化庁の企画、各教育委員会との連携、全国の研究者の協力により、調査方法・調査内容など、統一的な観点で収録されたデータに基づいている。

- ・昭和 52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、伝統的方言が比較的よく残されている。
- ・急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても重要なものである。
- ・全国規模のデータである。
- ・(報告資料全体のデータベース化が完成すれば)収録量が多い。
- ・(報告資料全体のデータベース化が完成すれば)地点密度が高い。
- ・連続したひとつづきの談話についての音声・文字化・共通語訳を対象としている。
- ・従来にはあまりなかった、音声 (wave ファイル、CD)、文字化 (カタカナ表記、text ファイル)、共通語訳 (漢字かなまじり表記、text ファイル) の電子化データを備えているので、研究や教育のために加工して、自由に検索することができる。

3. 方言談話データを用いた研究

3.1. 地域的な出現状況

- ①井上文子 (1994) 「「～ヨル (オル)」の残存について」『待兼山論叢 日本学篇』28 大阪大学文学部

「-ヨル (オル)」の分布と、各地の方言談話資料に出現する「-ヨッタ (オッタ)」を重ね合せて見ることによって、特定形式の残存の状況を観察した。

談話資料の自由会話は思い出話が多くなる傾向にあり、多種多様の形式を求めるときにはこの点が妨げとなりがちだが、この場合の「-ヨッタ」のような回想表現を求めるときには最適な資料といえよう。

- ②大西拓一郎 (1996) 「方言の録音資料—全国規模の方言談話資料とケーススタディとしての係り結び—」『日本語学』15-4 明治書院

おもに八丈方言における係り結びを、談話資料を資料を用いて概観している。

- ③清水真弓 (1998) 「『長野県方言緊急調査報告書』における方言の待遇表現の比較」『長野県ことばの会誌 ことばの研究』8 長野県ことばの会

「各地方言収集緊急調査」報告の中の「場面設定の会話」を取り上げ、会話の中に現れる待遇表現と依頼表現について、長野県各地点の比較検討を行っている。

- ④高木千恵 (1999) 「若年層の関西方言における否定辞ン・ヘンについて—談話から見た使用実態—」『現代日本語研究』6 大阪大学文学部日本語学講座

関西若年層の談話および内省から、「-ン」「-ヘン」の使い分けと用法について分析している。

- ⑤小西いずみ (2000) 「東京方言が他地域方言に与える影響—関西若年層によるダカラの受容を例として—」『日本語研究』20 東京都立大学国語学研究室

東京を中心とした地域の話しことば (東京方言) が関西方言に与えた影響の一端を談話資料を用いて明らかにしている。接続詞「ダカラ」の成立の歴史と地理的分布を確認したうえで、「ダカラ」「ダケド」「ダッテ」が現在の関西の若年層に受容されていることを指摘している。

3.2. 時間的な出現状況

- 真田信治（1983）「「ジャ」と「ヤ」の闘争過程——集落全数調査と録音文字化資料から——『国語学研究』23 東北大学文学部国語学研究室内「国語学研究」刊行会

一個人の発話を事例として、実際のひとつづきの談話の場において、判断を叙述する「ジャ」「ヤ」「ダ」「デス」のそれぞれの形式が時間的にどのように出現するか、その運用のゆれの実態が具体的に報告されている。

3.3. 文アクセントの構造

- 山口幸洋（1998）『日本語方言—型アクセントの研究』 ひつじ書房

ここで提唱されている、アクセントとイントネーションを合体した概念としての「文アクセント」の研究は、あくまで自然談話を重視し、そこから得られる文レベルの特徴に注目したものである。

3.4. 文表現の構造

- 沖裕子（1993）「談話型から見た喜びの表現—結婚のあいさつの地域差より—」『日本語学』12-1 明治書院

- 沖裕子（1993）「特集・日本語を考える 談話からみた東の方言／西の方言」『言語』22-9 明治書院

「喜びの表現」としての結婚のあいさつが、どのような表現構造をとって現れるのかを、談話構造の観点から考察を加えている。

各地点の報告の表現を比較考察することによって、談話を構成している意味的単位体である「要素」を分析し、その組み合わせで「談話型」を記述する方法をとっている。

抽出された談話の要素をもとにして、談話レベルの地域差についての考察がなされている。

3.5. 談話展開の類型

- 久木田恵（1990）「東京方言の談話展開の方法」『国語学』162 国語学会

東京方言の談話展開の方法を解明し、関西方言との比較によって、展開方法の地域性を考察して、類型化を試みている。

4. 方言文法研究への利用の一例

4.1. 言語地図の分布状況との比較

- 『方言文法全国地図』

- 『日本言語地図』

- 岸江信介、中井精一、鳥谷善史（2001）『地域語資料 5 大阪府言語地図』近畿方言研究会

4.2. 他地域の老年層の談話との比較

- 日本放送協会編（1959～1972、1966～1972＝ソノシート版、1981＝カセットテープ版、1999＝CD-ROM版）『全国方言資料』 日本放送出版協会

- 国立国語研究所（1978～1987）『国立国語研究所資料集 10 方言談話資料 1～10』（カセットテープ付） 秀英出版

○国立国語研究所はなしことば研究室編〈第1巻のみ地方言語研究室編〉(1965～1973)『方言録音シリーズ 1～15』

4.3. 同一地域の若年層の談話との比較

○真田信治、井上文子、高木千恵(1999)『関西・若年層における談話データ集』
科学研究費研究成果報告書

4.4. 多人数調査の結果との比較

○真田信治、岸江信介編(1990)『大阪市方言の動向—大阪市方言の動態データ—』
科学研究費研究成果報告書

○岸江信介、井上文子(1997)『地域語資料 3 京都市方言の動態』近畿方言研究会

10kyoto-solution - [10KYOTO]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) レポート(R) スケジュール(S) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

あ般 印刷 保存 開く 閉じる 戻る 進む 検索 印刷 印刷範囲 印刷設定

文字化

レポート数
226

該当件数
1

未ソート

100% フォント

NUM

全国方言談話データベース 京都 1
Database of Discourse in Japanese Dialects

発話No 207 話者 A CD 11 資料頁 89/90

文字化テキスト
ソノ トクニナー モー ジトシテマシター。(B エー)
コドモノブンワ タイクジシマシター アレワ。(B エー)
(咳)
ホクワ フシギニ ソノ タコ(32) アゲーケリナー、コマオ
マワシタリワ センカッタナー。(B フシブ)
(C アー サヨカ) Oラン シハリマシター。

NUM

10shiga-solution - [10SHIGA]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) レポート(R) スケジュール(S) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

あ般 印刷 保存 開く 閉じる 戻る 進む 検索 印刷 印刷範囲 印刷設定

文字化

レポート数
243

該当件数
9

未ソート

100% フォント

NUM

全国方言談話データベース 滋賀 7
Database of Discourse in Japanese Dialects

発話No 130 話者 A CD 23/24 資料頁 162

文字化テキスト
アー ヨーザンオ、ヨーケ ヤッタデナー。
(間) アレ、アバジブンニワ、ソヤ ヨーザンデモ
セナンダラ、カネノ ハイム。(C ア ソヤナ)
チニガ ナカッタデナー。

全国方言談話データベース 滋賀 8
Database of Discourse in Japanese Dialects

発話No 132 話者 A CD 24 資料頁 162

文字化テキスト
チャー(28)ニ、(C チャー) ニ、ヨーザンナー。(C ソー)
ソナー。(間) アバジブンニワ ヤッリ ヒヤクショーノコツダケデワ
イケナンダデ、ヤッリ チャートカー、カイ、
カイコトカナー、(C カイコトカナー) モー ソレ
セナンダラ、シゴトガ ナカッテンヤ。

NUM

検索例：京都「文字化」データを「ンカット」を含む文字列で検索

収録地点	発話番号	話者記号	文字化	共通語訳	資料ページ	CDトラック番号
京都	207	A	ソノ トクニーネー モー シントシテマシタナー。(B エー) コドモノジブンワ タイクツシマシタナーアレワ。 (B エー {咳}) ポクワ フシギニ ソノ ター[32] アゲターネー、コマオ マワシタリワ センカットナー。(B フン フン) (C アー サヨカ) Cハン シハリマシタカー。	その 特にねえ もう シーンとしていましたねえ。(B ええ) 子供の時分は 退屈しましたねえ あれは。(B ええ {咳}) 僕は 不思議に その 風を 上げたりねえ、独楽を 回したりは しなかったなあ。(B ふん ふん) (C ああ そう[です]か) Cさん なさいましたか。	89/90	11

検索例：滋賀「文字化」データを「ナンダ」を含む文字列で検索

収録地点	発話番号	話者記号	文字化	共通語訳	資料ページ	CDトラック番号
滋賀	11	A	{笑} ソーヤガナ ナンセ[3] ヒルナー (C ンー) アノー、イチバメンバ[4]ナー (C ウン) アノ ムカシノ オマエ メ、メンパー。(C アー) アノ イチバメンパー、アレワ アノー、ヒチゴー[5] ハイル チューネンナ、(C ウン) ゴハン ヒチゴーナ、(B フーン) (C オーキーワサナー アレワ) オーキー。アレ、イッパイ ツレント[6] クッテン マウネヤロー。(C {笑}) ソデ イッパイ ツレント、クッテ、アー モー、ホンデ、ハラ ハツツッデ、ホデ コンド、コピリ[7]ニヨ? (C ンー) マタ ソノ、リョーフ、カワト ミート、イレテ オマエ、(C ンー) ワラスベデ キュット {笑} ククットイデ {笑} (C ハジケンヨーニ {笑}) ベントー モツテ キテ {笑} ソト、ミーダケ ヒル クッテ、ホシテ {笑} ナンヤー コピリニ、ナ、カワダケ[8] マタ カッ、ト クーネン。ソングケ ク、クッテンナ。 (C ンー) ホットナー アレ、オーカタ イッショー アルワ。(C ハー) コメ イッショー。(C イッショー) クワシタッテナー) ソー ソルガ イッショーメシ クッテ {笑} (C マー) ソンナケ クワナラ、ナ、ア、ハラ、トクシンシヨレヘンネン。	{笑} そうですよ なんといっても 昼ねえ (C ンー) あの、いちばめんばね (C うん) あの 昔の あなた x めんばだ[よ]。(C ああ) あの いちばめんば、あれは あの、7 合 入る というんだね。(C うん) ご飯[が] 7 合ね。(B ふうん) (C 大きいよねえ あれは) 大きい。あれ [に]、一杯 すっかり 食べてしまうんだらう。(C {笑}) それで 一杯 すっかり 食べて[しまつて]、ああ もう、それで、腹が 張っているの、それで 今度[は]、小屋にね (C ンー) また その、xxxx ふたと 身と[に]、入れて あなた、(C ンー) わらしべで きゅつと {笑} 結んでおい {笑} (C はじけないように {笑}) 弁当[を] 持ってきて {笑} xx 身だけ[を] 昼[に] 食って、そして {笑} 何だ 小屋に、x ふた[側の分]だけ また カッ、と 食うんだよ。それだけ[たくさん] x 食ったんだなあ。(C ンー) するとねえ あれ、おおかた 1升[は] あるよ。(C はあ) 米 1升。(C 1 升飯[を] 食べなさったってねえ) そう それ が 1 升飯[を] 食って {笑} (C まあ) それだけ 食わなければ、ね、x 腹[が]、得心しないんだ。	122/123/124	14
滋賀	68	C	ケド ダンゴノアラリワ アンマリ フクレナンダナ。 {笑} (A {笑})	だけど 団子のあられは あまり ふくれなかったね。 {笑} (A {笑})	146	20
滋賀	70	C	カタイバツカリ。 {笑} モチノアラレワ ヨーケ アタラナンダヤナイ。	かたいばかり。 {笑} 餅のあられは たくさん[は] あたらなかったじゃない[か]。	147	20
滋賀	75	A	アー。ヤツパリ アレー ナンヤナー オヤツ ッチューノワ、ヤツパリ、イチンチノロードーガ キツイーガタメニ オヤツ、ヤラナンダラ マー カラダガ モクン**ナー。	ああ。やはり あれ あれだね おやつ というのは、やはり、1 日の労働が きついがために おやつ[を]、やらなかったら まあ 体が もたない[だらう]ねえ。	148	20
滋賀	122	A	アノ ソヤケド センソーチューニ アノー、アノナニ マメ クレヨッタ マメメシワ アレワ クエナナンダナー。(C コーリヤンメシ) コーリヤンメシワ マダ エー、マシヤデ。アノー、ダイズノヨ、(C アー ダイズノナー) アー ダイズノ、メシワ アレワ、ドーニモ クエナナンダナー。	あの だけど 戦争中に あの、あの なに 豆[を] くれた。豆飯は あれは 食えなかったなあ。(C 高梁飯) 高梁飯は まだ いい、まだよ。あの、大豆のね。(C ああ 大豆のねえ) ああ 大豆の、飯は あれは、どうにも 食えなかったなあ。	159	23
滋賀	127	C	{笑} アレワ ウソワ ツケナンダワ。(A・B {笑}) ヨーケ、クワン ウエターツタデナ。	{笑} あれは 嘘は つけなかったよ。(A・B {笑}) たくさん、桑[が] 植えてあったからね。	161	23
滋賀	130	A	アー ヨーザンオ、ヨーケ ヤツタデナー。 {間} アレ、アノジブンニワ、ソヤ ヨーザンデモセナンダラ、カネノ ハイル、(C ア ソヤナ) ナニガ ナカッタデナー。	ああ 養蚕を、たくさん したからね。 {間} あれ、あの時分には、それは 養蚕でも しなかったら、金の 入る、(C あ そうだね) あれ [=手段] が なかったからね。	162	23/24
滋賀	132	A	チャー[28]ニ、(C チャー) ニ、ヨーザンナー。(C ンー) ンー。 {間} アノジブンニワ ヤツパリ ヒヤクショノコメダケデワ イケナンダデ、ヤツパリ チャートカー、カイ、カイコトカー、(C カイコトカー) モー ソレ セナンダラ、シゴトガ ナカッテンヤ。	茶に、(C 茶) に、養蚕ねえ。(C ンー) ンー。 {間} あの時分には やはり 百姓の米だけでは [やって]いけなかったの、やはり 茶とか、xx 蚕とかね。(C 蚕とかねえ) もう それ[を] しなかったら、仕事が なかったんだ。	162	24
滋賀	216	A	ソレー シヤヘナンダナ。(D ハー) ソレー タベヘンカデナー、(C ンー) モーナー ジューイチジニワ モー ヒルニ、カエツケル。	それは しなかったな。(D はあ) それ 食べなくてもねえ (C ンー) もうねえ 11時には もう 昼[ごはんを食へ]に 帰ってくる。	190	31